

「ふくおか」から発信する、市民公益活動の情報誌

「明日を担う市民」への思いをこめて



ASUMIN NOTE 21

[あすみんノート]

2020 Autumn

Third place for youth

Special Issue

若者たちの居場所

Voice

小田哲也(認定特定非営利活動法人箱崎自由学舎ESPERANZA)

GOOD ACTIVITY FILES

特定非営利活動法人山王学舎
NPO法人みんなの学び館

@DATA

#すべての子どもが夢を描けるまちをめざして

Asumin Information

Asumin Recommend

あすみんのSNS (FacebookとTwitter)

Hondana!

「いいんだよ」は魔法の言葉 一君は君のままがいい

Organization Introduction

登録団体紹介:登録番号729~745

若者たちの居場所

Third place for youth

新型コロナウイルスの拡大により、誰もが今まで経験したことのない環境に身を置いています。それは、若者たちも同じで、学校に行ったり、友達と会ったりという、これまで当たり前だった時間さえ奪われてしまいました。そして、以前からあったいくつかの課題は、その深刻さを増してしまっているようです。

今回のissue(論点)は、若者たちの居場所について。福岡のまちで、いわゆる青少年と呼ばれる世代が抱えている課題について、彼ら・彼女らをサポートするNPOの活動を見ながら、私たちが未来を担う人たちに何ができるのかを考えてみます。

$$\frac{1_{\text{人}}}{7_{\text{人}}}$$

相対的貧困な
生活環境の子ども

厚生労働省:2019

164,528_件

日本全国の
不登校児童生徒数

文部科学省:2018

70,000_件

公立学校に在籍する
外国人児童

文部科学省:2015

543,933_件

いじめの
認知件数

文部科学省:2018

159,850_件

児童虐待
相談対応件数

厚生労働省:2018

6.5%

知的発達に遅れはないが、
学習面又は行動面で
著しい困難を示すとされた
児童生徒の割合

文部科学省:2012

VOICE

ボイス

認定特定非営利活動法人箱崎自由学舎ESPERANZA

小田哲也さん Tetsuya Oda

高校教師を辞め、JICAへ

もともと、私立高校で教員をしていました。とてもやりがいのある仕事で、大学進学に向けた学習やクラブ活動など、とても充実した教員生活を送っていました。しかし、生徒の中には、受験についていけない子もいます。本人の意思で、受験以外の道を見つけるのならいいけど、そういう子に特に多いのが、自分自身に対してネガティブな感情を持っている姿です。「どうやったらいいのかわかるか、言ってくれた方がラク」と生徒に言われたこともあります。これでは、子どもたちに「自主性」を育てられないと思いましたし、「先生、先生」とチャホヤされている自分とのギャップや疑問もありました。自分の力不足というのが、教員を続けられないと思った理由です。そこで、「もう一度自分を磨きなりたい」とJICA(独立行政法人国際協力機構)が派遣する青年海外協力隊に参加することにしました。最初に派遣されたのは、南米のコロンビアです。ここでは、少年院での教育に携わりました。私が相手をするのは、少年院の中でも社会復帰に向けた更生の最終段階にいる、

週末は自宅にも帰れるような状況にある子どもたちです。そこでは、彼らの力強く生きている姿に衝撃を受けました。経済的に豊かではなく、彼らの生きる力は「盗んででも生きる」という方向に発揮されていますが、「こちらの見方を変えればその子たちも変わる」ということを、彼らと接したことから強く感じるようになりました。とても純粋な子たちで、「先生！お土産だよ」とマリファナの葉っぱを渡してくるようなこともありましたが(笑)良い環境に育てば、違った生き方があるのだらうと思います。最終的には、7年にわたって途上国で国際協力に関わらせてもらいました。現地での業務も隊員から調査員へと変わり、例えばODA予算執行に関する案件など、大臣級の方との交渉も任されるように。責任あるもので、仕事の面白かったのですが、やはり子どもたちと触れ合うような現場が自分にあっていることを再認識し、国際協力の第一線から手を引き、再び日本の教育に目を向けることにしました。

自信が持てない元気のない子

日本に戻ってみると、「不登校」や「引きこもり」が社会問題になっていました。これは、私が教員を辞めた頃(7年前)には、少なかつたものだと思います。教員を辞める当時に感じていた不安はさらにはっきりとしたものとなり、学生は、何にでも意欲的で意識が高い子と無気力で指示待ちの状態の子どもたちに二極化

今回は、学校に行かない選択をした子ども達のためのフリースクール・フリースペースを運営し、居場所や体験活動を提供する「箱崎自由学舎ESPERANZA」の小田哲也さんにお話を伺いました。

しているようでした。しかし、これは子どもの本質が変わってしまったからではないと思います。私が学生だった頃は、「お金を稼いで車を買いたい!」というように、日本もまだまだモノに恵まれていない途上国でしたから、もっと目標も単純でハングリーでした。だけど、今の日本は



▲「お米づくり」は、創立以来行っている恒例行事。

ある程度ものが揃っているし、多様な価値観が存在しています。そのように、何を追い求めているのかわかりづらい複雑な環境が、彼らから目標を奪ってしまったのではないのでしょうか。また、昔の教育現場には、子どもの「本当に良いところ」に目を向け伸ばそうとする姿勢や雰囲気がありました。そんな教育を繰り返すあまり、自分に自信が持てない元気のない子になっている気がします。私も、そうでした。

ESPERANZAの誕生

「子どもたちに関わりたい」という思いを抱いて帰国しましたが、何をするかは漠然としていました。いくつかの教員採用試験を受けるも落ちてしまい、どうしようかなと思っているところに、私が教員を辞める頃に「子どもたちの自主性を育むため、寝食を共にしながら学ぶというのはどうか?」などと語り合った教員時代の先輩と「よし、フリースクールを本格的

に動きだそうか!」となりました。その先輩も教員を辞め、子どもたちとのキャンプ活動などをしていました。彼の幅広いつながりの中に、経営難で閉鎖に追い込まれているフリースクールがあり、そのスタッフと会ってみることに。当時、不登校やひきこもり、通信制高等学校の制度などに詳しく

なかった私たちですが、フリースクールのスタッフは、子どもたちの将来をしっかりと見つめ、一人一人とじっくり付き合いたいという気持ちを持つ人たちでした。この出会いは、何にも代え難い素敵で奇跡的なものだと思います。そうして生まれた「箱崎自由学舎ESPERANZA」。その校舎は、私の父が九大生を相手に下宿として使っていた建物です。次第に利用者が減って最後には誰もいなくなっていた建物を、父に相談し現在の形にリフォームしました。JICAで稼いだお金をつぎ込む形になってしまいましたけど(笑)。2005年の開設当初、福岡県内でフリースクールは5、6校で、どのフリースクールでも、先生1人に対して生徒7、8人程度というのが一般的なものでした。うちもそのくらいの生徒を預かるかとも思ったのですが、私たちのスタイルは一人一人とじっくり付き合うのが信条です。生徒に「自分は認められている」という実感を持ってもらうには、そんなに多くの生徒を同時に抱えるのは無理なんです。「たくさん生徒を預ければ儲かるんじゃない?」と、いろんな方から言われますが、うちの

経営や採算を度外視した4人の教師で15人程度を上限とした運営をしています。

「したいこと」ができる環境

スクールの運営は、何もかもがはじめてのチャレンジでした。学習活動はもちろん、野外活動や調理実習、講師の固まった考えを押し付けられないようにとゲストティーチャーを招いた活動なども行っています。また、うちの特徴だと思えますが、プログラムの多くは、生徒たちの自主性を引き出すために、スタッフは最低限の枠組みだけを作り、なるべく子どもたちの意見を取り入れて完成させています。今まで、親や教師が敷いたレールの上をいかにまじめに歩くかで評価されてきた子どもたちにとって、いきなり「自分で考えなさい」とは難しいお題かもしれませんが、生徒たちが自分達でしたいことをプログラムにすること、意味があると思います。また、不安が多いであろう家族のケアも行っていて、雑談からそれぞれの悩みを聞く「子育てについて語る井戸端会議」(毎月)や不登校・ひきこもり当事者に登壇頂き、ディスカッション形式で悩み解決の手助けをする「不登校経

験者の声に耳を傾ける座談会」(年2回)なども好評です。そして、次第に見えてきたのは、うちには、ある種の「不公平」が必要だということです。例えば「遅刻せずに時間通りに来れるか」について、とりあえず登校できただけで褒められる子もいれば、そんなのできて当たり前と言われる子もいます。どのタイミングで「社会に出る上での正しさ」を身につけ次に進むのかは、個人個人で違うし、差があって当然なんです。焦って身につけようとするれば失敗するし、成果として追いかけてもうまくいかない。子どもたちには「のんびりとした時間も決して無駄ではない」と思って、安心して取り組んで欲しいです。

自分の居場所を見つける

うちに来るのは、もともと学校に登校して、何かのきっかけから行けなくなったり、行かないことを選択した子たちです。その理由は、本人しか知らなかったり、正確に本人も把握できていなかったりしますが、こちらからあえて聞いたりもしません。不登校は、課題・問題と語る人もいますが、私はそれ自体を問題だとは思いません。だけど、不登校で社



▲一人ひとりの成長にあわせて「個別指導」を大事にしている

会から離れてしまうことには大きな問題があります。そこが嫌でも、大人はいろんな他の場所を選んだりできますが、多くの子どもにとっては逃げ場がなく、自分の居場所は「学校」と「家」しかないんです。今回、福岡市内のフリースクールを紹介するリストを作ったのも「いろんな場所が自分を待っていてくれる」と実感して欲しかったから。例えば、うちのやり方が合わなければ、「他の場所もあるんだ」と気づいてくれるといいのですが。一般的に、フリースクールでは経営が成り立たないと言われる。私たちの会計報告を見て欲しいですが、給与面でも職員に協力してもらっていますし、経営は常に危機的な状況です。正直なところ、いろんな方の支援があってはじめて継続できている団体です。今年、ようや

く認定NPO法人になることができたので、サービスが提供できなくなることを避けるためにも、皆さまからの寄付という協力をお願いしています。子どもたちが安心して学べるように、また職員たちも世代交代をしながら若い人の育成ができるように、取り組んでいきたいと思っています。

認定特定非営利活動法人 箱崎自由学舎 ESPERANZA

さまざまな理由で学校へ行かないことを選んだ小中高生をサポートするフリースクール・フリースペース。野外活動や子どもたち自身が企画する活動などのプログラムも多数。

<http://www.esperanzahp.jp>

GOOD ACTIVITY FILES

グッド・アクティビティ・ファイル

このコーナーでは「社会にイイ活動=Good Activity」を行っている団体をご紹介します。ボランティアに参加したいときや、自分たちの団体とつながる仲間を探るときなど、ぜひ参考にしてください。

33 | ちょっぴり勉強が苦手でも「学び」が自分から立ち上がる経験

特定非営利活動法人 山王学舎

「山王ひなた美術教室」を前身として、地域の小学生を対象とした「放課後児童クラブ事業」で放課後の居場所をつくり、子どもたちが自ら学ぶ体験をサポートしています。学習だけではなく、美術表現のスキルを取り入れた様々なものづくりや、お泊まり読書会、料理教室など体験を重視した学びの機会を提供しています。子ども食堂も開催しています。

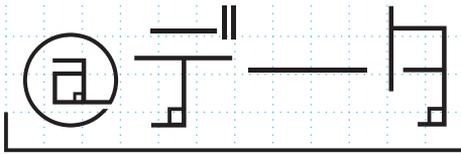


34 | 子どもたちが安心してチャレンジができる環境づくり

NPO法人 みんなの学び館

元小学校教諭の夫妻がフリースクール「みんなの学び館」を自宅に開設。読み書き計算の基礎学力の学習の他、子どもたちの「何を学びたいのか」を大切に、探求学習の時間もあります。一人芝居を行う講師の経験を活かし、ミュージシャンのライブを子どもたちと主催するなど、学校では経験できない機会もついています。





「@データ」は、市民公益活動に関わるさまざまな「データ」をもとに、詳しい方の意見を聞いたり、考えるきっかけをつくるコーナーです。

Tag:

#すべての子どもが夢を描ける まちをめざして

教えてくれた方

福岡市子ども未来局
企画課

福井充さん
Mitsuru Fukui



子どもにも
第三の居場所を!

福岡市子ども未来局
企画課

荒木優利さん
Yuri Araki



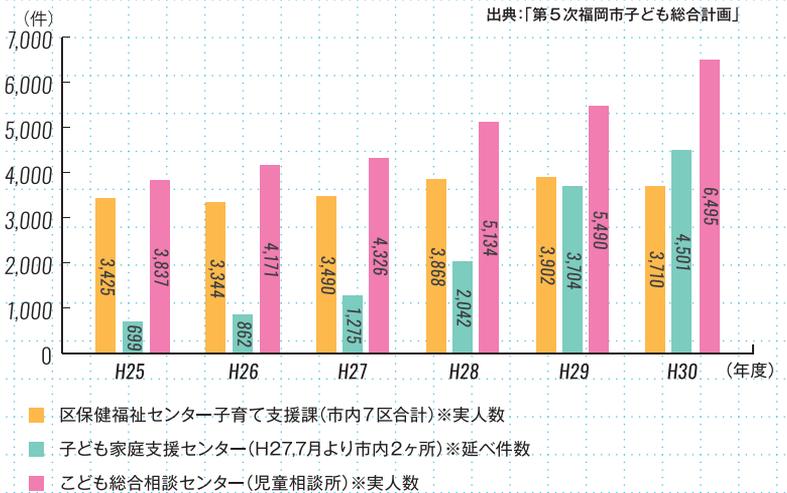
すべての子どもに切れ目のない支援

「第5次福岡市子ども総合計画」では、子どもが実際の困難に直面する以前の段階に目を向け、課題の周辺まで視野を広げた予防的な支援をめざしています。支援が届きづらい環境の子どもも誰一人取り残すことなく、出生前の妊娠時から青年期まで切れ目なく、ライフステージごとに必要となる支援を確実に届けたいと考えています。子どもに関する相談受付件数(data1)は増加傾向にあり、第5次計画では、区役所の相談支援体制の強化や子ども家庭支援センターの充実など、より身近な相談場所の整備をめざしています。

学校でも家でもない居場所

子どもの限られた生活の中では、家と学校が居場所となることがほとんどで、大人のように自分の場所を選択することは難しいものです。家と学校に居心地の良さを感じられない子どもには、第三の居場所が必要となります(data2)。福岡市が取り組んでいる「若者のぶらっとホームサポート事業」は、そんな若者に居場所を提供する事業で、学校や家庭と異なるコミュニティで過ごすことが、子どもにも良い変化を起こしています。そこに通っていた子が成長し、そのような場の必要性を感じて、今ではNPOを立ち上げ若者を支援する立場になった、という実例もあります。居場所づくりの成果を数値で表すことは難しいですが、このようなエピソードも成果の一つだと捉えています。

Data1 様々な困難から高まるニーズ 子どもに関する相談受付件数



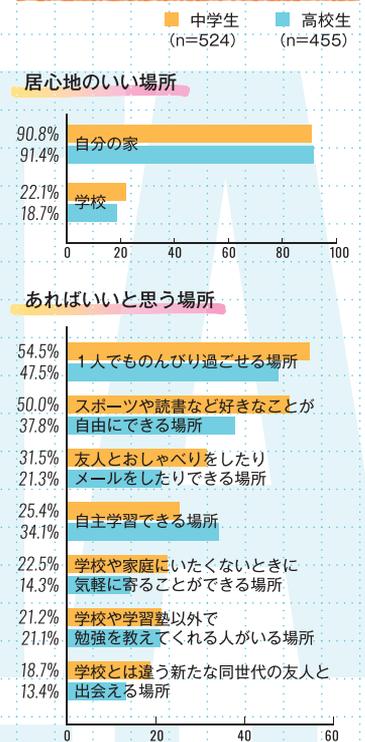
多くの主体が関わる支援

対象となる子どもの生活を、行政サービスの福祉や教育といった分野の都合で切り分けることはできません。また、子どもを取り巻く課題はどれも複雑に関係しています。行政内にとどまらず、民間とも連携した垣根を超えた支援が求められますし、行政と民間がそれぞれの強みを活かすことも大切です。民間の団体は子どもや若者に、身近な存在として寄り添えることが強みだと思っています。市では社会福祉協議会などと連携し、子ども食堂を運営する団体同士の情報交換会や、若者の居場所づくりを行なっている団体の研修会や交流会を通じて、横のつながりをつくる活動を行っています(data3)。

「多様な」に込められた意味

第5次計画には「多様な」という言葉が何度も出てきます。困難を抱えた子どもや若者も、一人一人が異なる個性の持ち主です。支援する側もそれぞれの特色を生かした活動ができれば、数ある場所のうちのどこかを「居場所」と感じることができるのではないのでしょうか。行政の支援だけではなく、子どもや若者が、多様な居場所や支援の中から選択できるような環境を作ることが大事なのだと思います。

Data2 居場所に関する 中高生の意識



Data3 福岡市内の 居場所の数



あすみんのオススメ

Asumin Recommend

あすみんのSNS (FacebookとTwitter)

皆さん、あすみんのSNS (FacebookとTwitter) は、フォローしていますか？現在、Facebookが1942人、Twitterが2289人と、たくさんの方にフォローいただいています。あすみんや福岡市が行うイベントや助成金情報などの「市民公益活動に役立つ情報」をHPよりも高頻度で紹介しています。登録団体の皆さんが「あすみんHP」にアップしたボランティア募集・イベント情報もシェアしていますので、「何かボランティアやNPOとつながる情報はないかな」という方も、こまめにチェックしてください。企業の社会活動や最近注目のSDGsなどの社会が良くなる活動やアイデアもシェアしていますので、これからの団体活動や他団体との共働のヒントも見つかりそうです！

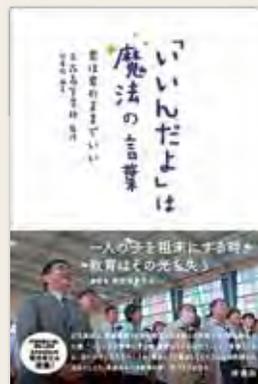


ホンダナ！

Hondana!

あすみんの図書コーナーに所蔵している書籍をご紹介します！

「いいんだよ」は魔法の言葉 —君は君のままがいい—



ISBN: 978-4-87035-661-0
 定価: 1,650円 (1,500円+税)
 判型: 四六判
 ページ数: 240

学校に通い試験を受け進学する「あたりまえ」が、様々な理由で難しい子どもたちがいます。「いいんだよ」という今の自分が肯定される言葉で、本人も周囲も社会の「あたりまえ」から解放され、可能性が開かれていく。「校長ちゃん」の語るエピソードは、自分や他者をどのように肯定するのか見つめ直すことを促します。社会の中の多様な居場所を考える上で参考になる一冊。

【監修】立花高等学校
 【編集】梓書院 【発行年】2019年

登録団体紹介

Organization Introduction

あすみに登録された団体を紹介します。(登録番号729~745)

- SDGs推進ネットワーク in 九州
- NPO法人スマイルハート
- 一般社団法人びんころ
- 特定非営利活動法人九州キラキラみなとネットワーク
- 特定非営利活動団体プリマ・ラ・サルテー
- natural earth
- 終アド九州
- ソーシャル・リンク 福岡
- コドモテラス運営委員会
- APを学ぶ仲間の会
- 九州ろう学生懇談会
- 特定非営利活動法人Youth creative group
- 一般社団法人未来共育創成協会
- 公益社団法人福岡市シルバー人材センター

- 女性と子どもの応援コミュニティ
- 一般社団法人SINKa
- やさしい日本語・HAKATA

重要 団体登録更新のお願い

登録番号が令和2年3月31日までに登録された団体は、現在更新期間中です。引き続き、あすみんをご利用になるには、期間中に手続きが必要となります。

●更新期間 7月1日～9月30日

更新に必要な書類は窓口へお問い合わせください

利用団体登録について

Check!

あすみんでは、施設やサービスを利用される団体に関して、利用団体登録をお願いしています。福岡市内で活動し、市民公益活動に取り組む団体(主にNPOやボランティア団体)が対象となります。登録に必要な書類は、下記の(1)~(6)になります。ご記入のうえ、窓口までお持ちください。また、(7)、(8)は登録の際にご持参ください。登録申請時には、書類の確認・面談を行います。

登録に必要な書類

- (1) 福岡市NPO・ボランティア交流センター施設利用許可申請書(団体)
- (2) 団体の運営に関する規則(定款、規約、会則等)
- (3) 活動計画書
- (4) これまでの活動実績がわかる資料
- (5) 役員名簿(6)自己チェックシート
- (7) 印鑑
- (8) 申請者本人確認書類(運転免許証、健康保険証など)

福岡市NPO・ボランティア交流センター あすみん

【住所】〒810-0021 福岡市中央区今泉1-19-22 天神クラス4F

【TEL】092-724-4801 【FAX】092-724-4901

【MAIL】info@fnvc.jp 【HP】https://www.fnvc.jp

【開館時間】月～土曜 10:00～22:00 日・祝日 10:00～18:00

【休館日】第4水曜日、年末年始 12月29日～翌1月3日

【facebook】https://www.facebook.com/asunoshimin/



HP



facebook



お越しの際は公共交通機関をご利用ください

- 地下鉄をご利用の場合 ● 七隈線「天神南」駅1番出口から徒歩6分
- バスをご利用の場合 ● 西鉄バス「今泉1丁目」徒歩1分
- 電車をご利用の場合 ● 西鉄福岡(天神)駅南口から徒歩5分

